

校長室より

校長 西里 俊文

「しあわせのバンバン！！」

4月の校長室よりで「校長先生 バンバン」と題して、小学部の子どもたちが「バンバン」と校長を手の拳銃で狙ってあいさつをする様子について紹介しました。

半年経ってその後はどのようなになったか、お知らせしたいと思います。

「バンバン」のあいさつから、みんなが笑顔になっていくのがわかりました。そこで、校長から子どもたちに「毎朝校長室に来て、バンバンとあいさつしてくれるようになって、みんなが笑顔になっているね。だからこのバンバンを『しあわせのバンバン』と名付けたいのだけれど、どうでしょうか？」と提案をしました。すると、小学部の子どもたち3人は、「いいですね」と言って、快く承諾してくれました。そして、あいさつするときは「しあわせのバンバンします！」と言って行うことになりました。

朝の打ち合わせで校長室にいる教頭先生や事務長さんにも、「しあわせのバンバンします」と言って、子どもたちはあいさつを開始しました。

しばらくしてから、子どもたちに更に「しあわせのバンバンはみんなを笑顔にする力があるね。校長先生方が終わったら、事務室に行って、事務の方々にもお願いしたいな。」と提案しました。子どもたちはうなずき、早速事務室に行き、しあわせのバンバンのあいさつをするようになりました。朝は、校長室、事務室とバンバンという元気な声と、それに伴うにこやかな笑い声がする、あたたかな空間かできました。

しかしながら課題も見えてきました。朝の打ち合わせの時間と重なることもあり、打ち合わせ中に校長室に入ってくることもしばしばありました。そこで、校長室の入り口に校長の動向を絵と文字で示しました。「朝の打ち合わせをしています」にマグネットが示してあると、事務室に行こうと相談し、打ち合わせ中の場合は校長室でのしあわせのバンバンを控えるようになりました。

その後、こんな場面もありました。ある事務の方が仕事をしている様子がみられると、他の事務の方に向かって小さな声でしあわせのバンバンをする子どもたちがいました。子どもたちがその場の様子を見て、「ここは静かにした方がいい。」と判断して、行動に移したのです。私は相手の様子を見て、小さな声でする方がいいと考えたことをほめました。

子どもたち自身が自然に社会性を考えるいい場面が広がっていて、とてもうれしくなりました。しあわせのバンバンが、良きコミュニケーションを構築していくきっかけになり、発展していくことを願っている今日この頃です。

私ごとではありますが、RAB 青森放送の取材を受け、その様子が HP にアップされました。その中に、「しあわせのバンバン」の様子が映っておりますので、もし良かったら見てください。

(2分過ぎあたりから流れます。)

<https://x.gd/APkHf>

